明治廿四年九月二十八日印刷
明治廿四年九月二十八日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第貳拾貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第貳拾貳號

目次

◎演説

◎傷をした時の心得　醫學士　伊藤隼三君

◎女子の健康は國家の健康なり　醫學士　三嶋通良君

◎本會錄事

◎其他數件

◎本會規則摘要

一本會の目的ハ汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し且社會全般の幸福を增進するにあり

一本會々員たらんと欲する向は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込あるべし

一本會々員を分て終身會員特別會員通常會員書生幷男子賛成員とす

但終身會員は入會の節拾圓以上を收むるもの特別會員ハ毎月貳拾錢以上を納むるもの通常會員は毎月拾錢を納むるもの學生ハ毎月五錢を納むるもの男子賛成員は毎月拾錢を納むるもの

一本會講談會ハ七月八月を除くの外毎月一回通常第一土曜日午後一時より開會し會員ハ勿論會員知己の傍聽を許す

一本會雜誌ハ毎月一回發行し會員に頒つ

一會費ハ郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しあるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會第貳拾貳號

明治廿四年九月廿八日發兌

講演

◎傷をした時の心得

醫學士 伊藤隼三君演説

大澤豊子速記

傷をした時の心得に就て、少しお咄しを致します。

一体御婦人方は、そんなに傷をなさる事は有りません、傷を負ふ塲合は御婦人方より男子の方が多う御座います。併し自分から好んで傷をしないでも、どう云ふ事で傷を受けないとも限りませんし、又(大きい傷は別ですが)氣にも止めない様な小さい傷から大きな害を引き起しまして次第に依れば命にまで係はる様な事も有りますから、今日は其小さい傷に就て重にお咄し仕様と思ひます。

全体小さい傷を云ひますものは、毒物の這入らない様に、奇麗にさへして置きますれば癒るもので御座います。隨分御婦人方は傷が附いても知らないで居らつしやつて癒つて仕まう事が幾らも有ります。即わち産を爲さる時傷が出きても見へない所で御座いますから氣が附かないでありますが、奇麗にして毒の這入らぬ様にして置きますれば自然と癒つて仕舞います。それ故醫師が療治するにも奇麗にして毒物の這入らぬ様にするので御座います。そう云ふ様に小さい傷は、清潔にして置きますれば癒りますが小さい傷だと思つてなをざりにして置きますと、それよりして大なる害を惹き起す事が有ります。それは如何なる傷かと云ひますに御婦人方が針仕事を爲さる時に、兎角指の先き抔を針で突きなさる事が有りますが、其時に傷に不潔な物が這入つたのを知らずに居りますと其處から漸々指が腫れて痛み出しますそれをも放つて置きますと、手が痛み腕が痛みしま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いには脇の下杯にぐり〳〵したものが出來まして、甚だ敷くなりますと手を切らなければなりませず腕を切らなければならぬ事の有りまして、遂には命ちに迄も係ります。針で突きましても一寸突た位ひで血も出ない樣なれば、非常に事は起りませんが、血が出る位ひになつたのを、なをざりにして置きますと、いけません大事にして置きますれば血が固つて傷口を塞いで仕舞ひます、毒も這入りませんし、暫く經てば、血も落ちて傷も癒りますが、折角血が固つて毒の這入らない樣になつて居りましても、氣を附けないで水に手を入れたり何かして血の固りを洗ひ落して、傷口を開けて置きますと、毒が這入る樣な事が有りますから手を洗いますにも血の附いて居りまする所は、成るべく水に入れない樣に、大事にして自然に落ちるを待つて居が宜しうございます、又針の先きに不潔な物か附いて居りまして血の中に這入ますと件けませんから、それを出す爲めに血の出ました時は絞つて、少し位ひは痛くつても耐忍しまして、眼に見ねない樣な少志の毒でも出して仕舞はなければなりませぬ、血を絞りますれば、少し位ひ針の先きに塵が附いて居りましても血に押し流されて仕舞ひます。そして血が外に出て固りましたのを、自然に落ちるのを待つて居りますれば、血の凝結の取れる時分には、從つて傷も癒ります。けれども血の凝結つて居りますのを、態々穴を開けて、傷口から塵が這入る樣な事にして置きますると、却つて咎めて大變な事になります。そうなつて來ると醫師も治療の施し方にも困る樣な事が御座いますから始めに氣を附けるのが肝要で御座います。其外如何なる傷でも、奇麗にして置きますれば癒ほります、其外別に御婦人方は傷を爲さる事も御座いませんが序で故もう二つ三つお噺しをします、何處の家でも

〔猫の蓄つて居る家は知りませんが〕鼠の居ない家ハ有りません。そして寝て居る時、鼠に手を噛まれたと云つて御出でになる御方も隨分有ります。縱令い何も附いて居らんでも、嗅みと云いますものハ、好い香ひでも惡るい香ひでも）長く取れない事の有ります。其時に指の先き杯を噛まれますと、噛んだ丈けでは濟みませんで、同時に毒が這入ます。併し僅かの傷で有りますから、氣を附ければ大した事ハ有りませんが、少しの事だと思つて放つて置きますると、其時ハどうやら斯うやら愈つても、後々までも痛みます。平生はなんともありませんでも、時候の變り目に痛み、熱が出る事も有りまする。或ハ五年十年も煩りて、遂に死ぬ樣な事も稀れには有りまする。又一生噛まれた手が、萎びれて役に立たなくある樣な事も御座いまするから、噛まれた處の血を充分に絞り出しまして、其上に猶も口で吸ひ出し、吸ひまするも同じく身躰に這入まして、惡るいらうと思ハれますが、吸つて飲に込みましても、そう害になるものでも有りません）噛まれた上を縛つて、血の通はない樣に這入りました毒が傍に上つて往きません樣に致しまして翌朝になつてから、醫師の處に往つて手當をして貰らうが宜しうございます。そうすれば決して大して事には至りません、又是れは鼠の毒を同じ樣な事ですが、東京にハ毒蛇の居る樣な處も有りますまいが、或は夏避暑に御出掛けになりて、毒蛇にかまれるとか、或は海水浴に御出になつて、海に居る蛇（海蛇）に噛まれる樣な事が無いとも云へません、そんな事が有りましたならば矢張り血を絞り吸ひ出して、血の通はぬ樣にして置いて、醫師に往つて見て貰うが宜しうございます。蛇に噛まれても、矢張り足が曲ります、又曲る程でなくても萎れて仕舞ひまして、時候の變り目には痛み出す

事が有りますから、今申しました樣になさるが肝要で御座います。又犬に噛れなさる事も御座いますまいが、大概ハ遠くてワン／＼叫んで居つて、此方で進めば進む丈けに逃げます、併し犬とても此方で苦しめましたならば、向つて來て噛むかも知れませんが、此方に構ふ心が無ければ恐るゝ事ハ有りません併し狂犬で近くに來る迄は默つて居りワンと云ふが早いか噛み付く樣な事がありますと、後に害を殘す事が有ります。是れも矢張り蛇や鼠に噛まれましたと同じ工合に、血を絞り出しまして、そして吸ひ出して、能く縛つて醫師の處に往つて療治をして貰うが宜しう御座います。狂犬に酷く噛まれますと食事もされない樣になつて死んで仕舞います、人間に噛まれるのでも、凡て怒つたものに噛まれると、自然と毒が廻ります、毒物が無くつても怒つた勢で噛む故毒が出ます。併し人間に噛れる樣な事は滅多に有りませんが、若しそう云ふ事が有りましたならば、矢張り前に申しました通りの所置をして、而して醫師の處ふ往くのが好いで有ります　斯樣な事は僅かな傷で御座いますから、往々氣が附かないで居りまして、後ちになつてから害を釀す樣な事が有ります。又大きな傷と思ひましても、左程で無い時も有りますが、血も余り出ない、噛まれた時は格別痛くも無いと云ふ樣な傷で後に惡くなる事がありますから、充分に御注意なさらぬと後に害を殘さないとも云へません今日は斯る小さい傷をなされた、時の御注意を申しました、基づく處は小さい傷は奇麗にして置きますれば癒ります、針で突いたのは血を絞り出せば宜しう御座いますが狂犬毒蛇等に噛まれた時は、絞り出した上にも好く吸ひ出した、そして縛つて置くが宜しうございます、勿論是非とも醫師の處に往かなければありませぬが、それ迄の間に斯樣

な御注意を爲れたあらば宜しからうと思ひまして、是れ丈げの事をお咄し申しましたのでございます。

女子の健康は國家の健康なり

醫學士　三嶋通良君說演

天地ハ廣し萬物は多し、遥に蒼穹を望めは日月星辰整々として列を乱さず遠く球上を眺むれは鑛物、植物、動物の各界各其分を守りて文を爲す、諸子の此中に就きて其最も美にして且つ最も有用なる一物あるを識る歟。「春たつと云ふばかりにや三吉野の山もかすみて今朝は見ゆらん」と詠じたる春のあけぼのに、たなびく霞の間々に、咲き盛りたる櫻花の、雲かと見まがふばかりなるに、夕月の影はのかに見るときハ松永貞德をして「雲と見て今宵の月にうからましよしや吉野の櫻なりとも」云へる歌を詠ましむ。されば此の花ぞ最も美にして且つ最も有用なる歟、余ハ櫻花の美他に比ぶ可きもの少きを知ると雖とも未だ其有用缺く可からさるものなるを聞かず。「夏ハ卯の花橘あやめはちすなでしこ、風ふけばすゞしくて水に心をうつせり」と、八橋撿校のたゝへたる夏の夕、廓公子の啼き初めたるが、おぐらき軒端に幾聲となく語ふをきくとき此の花と此の鳥とハ、そも彼の最とも美にして且つ最も有用なりと云へるものに合格するか、決して然らず。されば「古き都に來てみればあさぢが原ぞとあれにける月の光はくまなくて秋風のみぞ身にはしむ」と後德大寺の左の大臣か詠みたるときに當り、欄に倚りて遥に海面を詠むれば團々たる明月の水平線を放れて徐ろにうすつくが如く昇り行くを、あゝ名月あり一勾浮びたりとて硯ひきよせて「名月や歌に詠ふか詩にせうか」美知などゝ稱する月ハ、最も美にして且つ有用なるか未だし。而山水の閑雅なる、雪霰の奇麗なる、或ハ

瀑布の勇壯なる、露をける野邊の千草、風かほる御園の橘花、或は理學の應用によりてなれる電氣燈の美なる化學の應用より成たる各種の色料など或は美に或は有用にあらざるにはあらねども、未だ最も美にして且つ最も有用なると云ふ可らず。然らば吾人は何物をか此の位置にすゝめて、此人間社會の爲のみならず、あらゆる生物界の爲、否宇宙萬物の爲に最も美にして且つ最も有用なる物たるの花冠を與へんとするかと問はゞ余は謹んで此花冠を……女子……の首に與へんとすと答へんのみ

嗚呼世界は廣し、萬物は多しと雖ども、若し女子なかりせば、そもいかなる情態を呈せんとする。試に思へ凡そ女子なくして眞誠の愛情ありとするか、一家に家婦なくして團欒し快樂ありとするか、小兒に慈母なくして能く生育するとなすか嗚呼人間社會に女子なくして能く秩序安寧を保有し得る歟

殊に最愛の女、注意ある母、親切なる妻ハ實に男子の、生命なり。誠に女子は男子の生命の爲、事業の爲競爭の爲に最も得難き親切なる保庇、高尙なる目的及び余りある名譽なりと云ふ可し諸子は如斯の榮譽を微に傾國の笑にかけ、單に自ら慢するのみを以て前の榮譽を享くるに足れりとなすか。余は未だ決して此の類の女子の爲に一言だも賛辭を發せしことなし、諸子乞ふ試に思へ如何せば前の如き賛辭を享くることを得可きかを、實にや女子には之に對するの職務あれそなり。

之を統計に鑒るに、歐州に於ては平均男兒百人に對して女兒九十四人乃至九十五人の生るゝ割合なりと然るに男兒に在りては、其分娩時に當りて既に之を女兒に比すれハ一の不利益なるものあり、即ち其分娩の困難なることとれなり、故に其當時既に鬼籍に登るもの多し、於之乎漸く男女兒の數平均を得。其後

十年より十五年に達する頃迄は、男女其異同稍の境遇を受け、而其死亡數も大抵相同じ、此年齡に至れは、富有なる家の男子は學文其他の稽古事の爲、農家の男子は諸々ある勞働等の爲に、之を女子に比すれば害を蒙ること多し、女子に在りては此年齡は最も都合よき時期にして、其業を執ること少く、衣服に美を飾り、濫に其愛婦を裝ふを以て、從りて其死亡數少し、廿年を超るときは、男子は各自の職業あり、兵役の義務あり而始て世路の辛酸を知る女子に於ては、此時小兒を設け始て人間社會の交際を知る其關係相似たるを以て互に甲乙なし、唯女子に在りては其齡を重ぬるに從つて漸く其負擔と危險とに遠かるあるにも係はらず、男子に在りては其事業に就きて愈生存競爭を止めず、爲に高年に達すれは其男女の數始め正反對となる。

凡る男子たる者は己の名譽の爲、其妻の爲及び其家族の爲に、生計の基礎を成すとは歐州人の常に唱ふる詞あり、然るに歐州の南スラウインの如く、モンテ子グロに於けるジュナックの如き野蠻なる國に於ては、女子に耕作其他一切の荒仕事をもなさしむるを以て、老年に及びても其境遇男子に異ならず、從がつて其死亡數遙に男子の上に出つ、今歐州の統計表と我國のものとを比較するに左の如し

男子百人ニ對スル女子ノ割合

年齡	日本	歐洲
○年ヨリ十年	九六、三	九六、八
十年ヨリ二十年	九七、二	九八、四
廿年ヨリ三十年	九七、○	一○五、五
卅年ヨリ四十年	九四、五	一○二、五
四十年ヨリ五十年	九二、七	一○一、七
五十年ヨリ六十年	九八、三	一○六、八
六十年ヨリ七十年	一○七、七	一一七、三
七十年ヨリ八十年	一二九、二	一一七、一
八十年ヨリ九十年	一七二、一	一四四、八

以上の統計に出るときは、吾が日本の女子は、實に生後より六十年に至るまでハ、其死亡數男子より多し、之を歐州の女子の既に二十年以後ハ、其生存數の既に男子より勝りし者に比すれば、それ幾許ぞや實に我國の女流社會の爲に長嘆息せずんバあらざるあり。然れ如斯女子死亡の夥しきは、前の野蠻國の例の如く、女子をして長く而多く勞働の仕事を執らしむる爲歟、果社會上或る他の理由あるか、又は全く衛生上に不完全のところあるか、實に吾人の今後研究を要す可き大問題あり。如何とあれば、女子生命長短の差異たる、決して一般女流社會のみの一私事に止まらずして、延きて社會万般の事物に關係を有すればなり。余ハ社會衛生上の大權は、實に女子の手中に在と云ふを、憚らざるなり、社會の衛生は一家の厨房より成る、一家の家婦は其厨房、及び全家の衛生に就きては其責任を有す、責任ある者は必ず義務あり。余ハ今女子に關する衛生と女子の衛生上に於ける關係とに就きて少しく述るところあらんとす。

凡そ女子教育の目的ハ

良　母　賢　妻

を造るにあり、而之を教育するハ、三五の月清くして容姿の阿嬌なるの時に於て、之を始む可きにあらずして、決して振りわけ髮の童女の時に在るなり。彼の女子と見よ、手にハ木偶を取り、傍に小さき飯事の器具を併列して遊戯をなす、怜悧なる時は、必ずや此時期を利用して、將に女子に家政の學を呼入す可し、余ハ殊に衛生上の事に就きて云ハん、其飯事をなし、玩器を飾る時は、能之を整理し、之を清潔にす可き等を教誨へ、其人形を取扱ふや、能く注意を加へ、之を保庇し、之を愛撫し、苟且にも手足と挑き、傷を蒙むらしむることなからしむ、如斯して

既に充分衛生の種子を蒔植す。

而此際尤も注意す可きは女兒の身體の發育之なり凡そ女子として美しき婦、幸なる母たらしめんと欲せば、宜しく女兒なるの時に於て、身體の發育に注意す可し健康にして強壯なる女子の、人の妻となり母となりて能く夫を内助し、子兒を敎養する事を得可くとども、暖室咲の花の如き姫御前ハ、一回の分娩に既に花凋み枝撓みて、或は神經ハ過敏となり、或ハ疾病の床に伏し、温泉に遊山に、貴重なる光陰と金銀を浪費し、而夫に對してハ常に少の事にも卒倒を起し、内助なんど思ひもよらず、小兒に對しては力なき母として、之を敎養することを得ず、如斯の孱弱女子夫れ何の用にか立たん、

然らば如何して、女子の身體を強壯ならしむることを得んやとハ、實に非常の難問にして、一定の長日月と、幾多の經驗とを積まされば、之に適當の解釋を與ふることを得ざるあり、然りと雖ども虚弱にして過敏なる女子をして、之に倚らしむ可きところの道ハ、即ち其筋骨の機關をして、強壯ならしむるに他ならざるなり、然らば之を處するの方法如何ん、熟ら我國女子の情態を視るに、其衛生上と敎育上、及び學校と家庭との間に於て、少の連絡もなきに驚く、乞ふ試に之を説かん、

下等社會に於ける女子の問題は措く、中等上等の社會を視るに、先づ少女子を目して、御嬢様御姫様と稱す、吾人ハ不思儀にも、此嬢様と云ひ、御姫様と云ふ言語の間、自然身ハ嫋々として腰細く立つときは芍藥坐るときは牡丹、行くときは百合花の情態を想像せしむ、然れども内に勇壯活潑の氣ありて、後年夫の爲に内助の功を建て、人の爲に貞烈の鑑を成すことある可きを思念せしめざるは何ぞや、吾人は其美の楊貴妃の如く、其容の衣通姫の如くなるを希

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ、然れとも亦た其内助は（ジヨゼヒン后）の如く、其子を敎ふると孟母の如くならんことを望む、如斯せんと欲せば夫れ之を如何してか可なる

前にも云へるが如く、女子の身體をして强壯ならしめんと欲せば、先づ之を女兒なるときに於てす可し即ち毬つき、羽根つき、鬼ごと、唱歌、舞伎、徒手体操の如きものを自由に行はしむ可し、吾人ハ女子の温順なるを稱ず、然れとも温順とは身動きもせさせずと云ふことにはあらざるを知る、吾人ハ女子の擧動の沈重なるを好む、然れとも沈重とは活潑の氣を有せざることにあらざるを知る、

元より身體の運動をして自由ならしめんと欲せば、先づ衣服をして之に適するやう製作せざる可らず、次に相當の廣き場所を要す、我國の女子の衣服は、殆んど運動禁止の命令をなすに均し、然しながら衣服を改良せんことハ、なほ數年の研究を要す可きものなるを以て、先づ目下用ゐらるゝところの、長袖長裾の衣服を裝ひたるときハ、必ずや運動に先ちて輕き衣服と柔き帶とを着け、玉襷をかけ、裾を端折る可し、此容態ハ實に精悍しきものなれば、其形容に於ても世の批難なかる可し、又た少女兒にありては袖短き衣を着せ、裾短き袴を穿たしむるも宜しからむ、而して幸に一定の廣場を得ば、各種の遊戯運動をなすに於て差支はなかる可し、

次に一言したき事は衣服の調製なり近來ハ専ら外部の華美を尊ふの風熾にして反へりて衛生上の本旨を忘る實に嘆す可きの至りなり余は諸子の率先之が改良を爲さんことを望む次ハ締物の事なり、先づ附け紐ハ可成上着にのみ附することゝす可し、次に帶ハ幅の余り廣からずして且つ、柔かきものを用ゐ可し幅廣く厚くして强き帶を强く結ぶときハ、呼吸及び血液の循環を障け、其害コーセットを着ると何ぞ擇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んや、次は紐の事なり、我國の女子は常に少くとも三四本の紐を用ゆ、余は之を用ゐざれとは云はず、只之を締ることの余り強からざることを希ふ。食物及び住居に關する事は、別個の問題に屬するを以て茲に云ず。

近來歐州の醫家中切に說を爲して云く、女子教育上其課業常に大に過多なり、如斯せは愈以て女子の身體をして虛弱ならしむと。我國の醫家中にも既に同様の說を唱ふる者數多あり、余は實に斯說に反對するの一人なり、誠に我國の女子の位置を歐州の女子に比せば、諸子必ず其非常なる懸隔あることを知らん、是れ何に由りて然る歟、其理由とするもの數個ある可けれども、教育の不行屆なることを其主なる原因なり。而徐に我國女子教育の情態を視れば、之を男子の教育に比して、非常に緩步不振を識るは、事實に於て明なり。然るに今や所謂衛生上の一因を以て、漸く女大學、庭訓往來、三從、七去の教訓の境域を離れて、眞誠なる良母賢妻の國に進まんとしつゝあるところの、女子教育をして、蹉跌せしめんとし、我國上等社會の女子の虛弱なるの原因は、彼に在るを知らずして反りて之をのみ攻むるは、余は私に其視察の甚た至らざることを惜む。

教育なるものを別ちて體育、德育、智育、三大育とするものとせば、體育は木の幹にして德育は其生力なり、而智育は其花實なり。されば先づ其幹をして肥ならしめ之に充分の生力を與へざれは、如何して善美なる花實を求むることを得んや、余は目下の女子教育上、其教育上と衛生上との關係、幷に家庭と學校との間に、一向連絡なくして、右往左往なるに由りて、可憐妙齡の女子は、其間に突きつ突かれつして、其身を勞し思を焦すあるにも係はらず、教育上に於ては一二不用の理屈を暗んじて、人の妻たる能

はざるものとなり、衛生上に於ては神經過敏、營養不及等の虚弊を受けて、人の母となることを能はざる者となるを認む。豈に課業の過多なるの一因のみならんや。然れども余は目下の女子に與ふるところの課業は、決して適當なるものなりとは信せざるなり況んや其敎師たるの人に於て幾多の缺点あるに於ておや、此は別の問題なるを以て茲に説かず

尚ほ緊要の問題は早婚の弊之なり。早婚の弊一にして足らずと雖ども、敎育上に於ては其不行届なるを以て、人の妻となり、一家を治ることを能はず、衛生上に於ては其身體の未然なるが爲に、强壯なる小兒を産むことを得ず、且つ之を敎養することを得ず、然るに始に之を好みて配したる人、多くは常に後に至りて其不完全なることを責む、吾人は彼の幹の未だ肥ゑずして、生力の充分ならざる木を、急に他園に移植するときは、未だ決して果實を結ばざるを見る未然の女子如何んぞ好結果を遂ることを得んや。

世の父母たる人、多くは其子女の一日も早く學業の成らんことを希ひ、其弊遂に子女の首を引き、足を引きて、之を引き延ばさんとするを見る、於是乎短時日に於て、急に多くの學課を學ばしめんと欲するを以て、尚ほ幼きに早く學校に入れ、從ひて比較的過多の課業を課せざる可らざるに至る、是れ其女の年僅に三五二八に至れば、恰も塵芥でも捨るが如く、切りに早く片付けねばならぬと云ふ、世の陋視よ希くは少しく氣を鎭め胸を撫でゝ、其女の十九二十の年に至るを俟ちて、始めて人に配せんことを思へ、然るときは其小兒時に有りても、其妙齢時にありても、亦た其成熟期にありても、充分に身體の營養をなしつゝ、徐に敎育を受くることを得て、後年賢母良妻となり、夫には内助の功多く兒には慈母の德高く、家政能く齊ひ、家人皆な健康に、夫は愉快に國

家の爲に奔走し、婢僕皆な忠に主に事ふ、一家團欒の樂は天國の樂なり、國家の富强、萬民の和樂皆な此の所に起因す。嗚呼女子の健康實に忽諸にす可らざるなり、故に曰く女子の健康は國家の健康なり。

本會録事

◎九月總會　九月十九日午後一時より麹町區富士見町四丁目十二番地明治義會に於て本會の總會を開きたるに來會する者大凡五拾餘名席定まるや半期間の會計收支決算幷に諸務の概略を報告し役員の改撰を行ひ投票点撿せしに加藤鈴子最高点を以て會長に南部晱子副會長に其他幹事七名當撰せしを以て其承諾を求めしに各々承諾せられたり獨り副會長南部晱子は從來本會の爲め非常に盡力せられたるが不幸にして病痾に犯され爲めに其職を辭されたり强ひて病ひを重ねんを恐れ次点者濱尾作子に委任し其承諾を得たり依て其改撰の結果左の如し

會長　加藤鈴子
副會長　濱尾作子
幹事　村岡久野子
仝　細川都子
仝　西升子
仝　堤松子
仝　椿高子
仝　北澤信子
仝　馬渡玉子

當日の講師にて醫學士三嶋通良君ドクトル加藤照麿君宮本仲君來會せられ三嶋君婦人の健康は國家の健康なりの演説幷に宮本君の保育園に就ての演説あり暫時休憩茶菓の饗應あり散會せしは五時なりき。

本會半年度會計報告（自明治廿四年三月至明治廿四年八月）

收入之部		
一會費總高	一九八	三〇〇
一合計	一九八	三〇〇
支出之部		
一會場費	一	八〇〇
一筆記料	一〇	〇〇〇
一雜誌印刷料	六八	〇四〇
一郵券幷端書	三二	六〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一諸印刷料	一一	八一五
一筆墨紙	二	六三〇
一器具料	二	二〇〇
一食物研究會借家料	一二	五〇〇
一事務員給料	三〇	〇〇〇
一雜費	一〇	一八三
合計	一八一	七六八

收支差引

一殘高	一六	五三二
一三井銀行預金總高	八一	〇九二
一利子	二	一三五
合計	九九	七五九

明治廿四年八月卅一日現在會員數調

一總會員四百五拾貳人

內譯

一修身會員	拾參人
一特別會員	拾壹人
一男子贊成員	五拾貳人
一府內通常會員	貳百五十壹人
一地方會員	八拾六人
一千葉支會々員	三拾九人

自明治廿四年三月至仝年八月入退會者總數

一入會員	百拾六人
一退會員	六拾九人
一寄雜誌數	貳拾貳冊

本會附屬保育園會計報告（自明治廿四年四月至明治廿四年八月三十一日）

收入之部

	圓	十錢厘
一保育園設立義捐金總高	四〇八	七〇〇
一特別義捐金總高	一〇七	八〇〇
一保育料	二二	〇〇〇
合計	五三八	五〇〇

支出之部

一保育園設立義捐會雜費	一三七	六二〇
一開園前雜費	四	二一〇
一器具買入費	五九	三七五
一開園式雜費	五	六九〇
一借家料（自五月十五日至八月三十一日三ヶ月半分）	七〇	〇〇〇
一食費	四三	九〇一
一保姆手當	一〇	五〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一雜費	二	九九二
合計	三三四	二八八
收支差引		
一殘額	二〇四	二一二

◎寄附金　本會附屬保育園設立を賛成せられ日本橋區蠣殼町三丁目五番地長井糸子(會員外)より金拾圓。仝區堀留町貳丁目拾五番地板谷梅子(會員外)より金五圓本園に寄附せられたり。

◎本年三月以降八月至る本會へ寄送せられたる雜誌左の如し

一愛姫衛生雜誌　二冊　大日本私立衛生會愛姫支會
一三重衛生會雜誌　六冊　三重私立衛生會
一產科婦人科研究會日報　一冊　產科婦人科研究
一會埼玉衛生雜誌　五冊　大日本婦人衛生會埼玉衛生支會
一大日本婦人教育會雜誌　三冊　大日本婦人教育會
一普通衛生雜誌　二冊　普通衛生會雜誌社
一青森縣地方衛生會議日誌　一冊　青森縣内務部第三課
一護國之楯　三冊　北海禁酒會
一衛生實論貳編　一冊　聖會本場

◎保育園へ寄附せられたる物品左の如し

一小兒便器　五個　宮本仲君
一改良哺乳壜　一個　小鹿嶋ふで子

◎通常會員　諫早神代子は去る八月より特別會員とならをたり

◎九月中入會者

特別會員

一塩澤よ志子　京橋區弓町四番地

通常會員　(姓名いろは順)

一馬場ぬい子　本鄉第一醫院
一岡野梅子　赤坂區溜池靈南坂町三番地
一和田みう子　麴町富士見町四丁目十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一川口もと子　本郷第一醫院
一高橋てう子　日本橋區本町二丁目十二番地
一立石しづ子　本郷第一醫院
一高橋さだ子　仝
一田中さだ子　仝
一阿部優子　麻布區飯倉三丁目十五番地
一柴ゆき子　牛込區佐土原町三丁目八番地
一關口喜代子　牛込區砂土原町三丁目六番地

○本會々員宿所轉居左の如し

一岩佐榮子　赤坂區田町七丁目三番地
一兵頭あさじ子　駿台鈴木町
一豐住好子　芝高輪
一岡村喜代子　牛込區神樂町二丁目二十番地
一大井まさ子　麹町區上二番町五十番地
一河準とし子　芝白金三光町四百九十八番地
一高嶺せん子　小石川大塚窪町四十三番地
一植松千代子　豐洲表へ
一栗塚りやう子　麹町區飯田町六丁目二十番地
一小泉万千子　麹町區平河町一丁目一番地
一兒島しも子　姫路市野里鍛町十四番地
一近藤かう子　仙臺東三番町百十六番地
一小代いし子　熊本縣球磨郡人吉大村泉田
一江馬ます子　静岡市屋形町静岡病院内
一天野群子　麹町區一番町二十七番地
一澤邊れん子　麻布區笄町廿八番地
一佐々木うめ子　四ッ谷區南伊賀町五十三番地
一三宅榮寛君　豐後國大分郡大分町五十番地
一三浦とき子　麹町區土手三番町卅三番地
一志賀かま子　兵庫縣豐岡高等小學校

◎稟告

去る一日より本園を開き保育依托者の類談に應じ來りたるが入園時非常に虚弱なる小兒も今や強壯活潑となり人をして欣羨に堪へざらしむ類談せんとする者は來園の上該小兒并本園の趣意方法規則等に就き熟覽あるべし

麹町區五番町十五番地
大日本婦人衛生會附屬
保育園

◎衛生食物研究會假規則

第一條　本會ハ衛生食物研究會ト稱シ假ニ麹町區五番町十五番地保育園内ニ置ク

第二條　本會ノ目的ハ價廉ニシテ滋養ノ多キ食物ヲ撰ミ和洋折衷ノ調理ヲ研究シ會員互ニ是ヲ日々實際ニ行ヒ専ラ衛生上ニ効驗ヲ現スヲ旨トス

第三條　何人ヲ問ハス本會ノ目的ヲ賛成入會ヲ望ムル諸姉令孃ハ直ニ入會スルヲ得可シ
但入會ノ際器具料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第四條　本會ハ當分毎月三回第一第二第三金曜日午後一時ヨリ開會ス
但出席ノ有無ハ開會一日前ニ報知アルヘシ報知ナキハ出席ト見做スヘシ

第五條　本會ヘ參會スル者ハ一回金貳拾錢ヲ會費トシテ納ム可シ若シ會員外ニシテ臨時出席ヲ臨マルル時ハ來會ヲ許ス
但會費貳拾五錢持參アルヘシ

◎廣告

新發明羽毛氈廣告

羽毛氈ハ大坂城戸組製品ニシテ保存久ニ堪ヘ又左ノ効驗アリ

第一羽毛脱落スルヿナシ

第二藥液ヲ以テ蟲鼠ノ害ヲ除キタリ

第三嚴冬モ之ヲ敷キテ臥セハ巨燵ヲ要セス

第四病者ハ勿論老人小兒又少壯ノ人ト雖圧之ヲ敷クキハ爽滑温暖ニシテ愈快ヲ感シ衛生ニ効アリ

第五風致アリテ美麗ナリ

右三疊敷壹疊敷坐蒲團倚子掛其外種々取寄候間御試用被下度尤摸樣等ハ御好次第爲織立候ニ付キ何卒御用仰付被下度奉願候

東京市神田區外神田田代町十一番地
大坂城戸組代理舗温雅堂主人

一宮猪三郎拜

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方ハ至急事務所まで御送附被下度爲替ハ總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員　太田いく子　鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京麹町區三番町六十七番地　巖本善治

印刷人　東京麹町區上二番町十八番地　八木吉六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN